



2025年10月31日
英数学館小学校
校長 永留 聰

IB教育を支える校内支援の工夫と実践

IB教育（PYP）は教職員の理解・保護者の理解・児童の理解がなくては実践していくのは難しい。校長として、いかにIB教育の理解・浸透を教職員・保護者・児童に図っていくか校内での「IBの学校文化の醸成」としてどのような試みをしているのか紹介したい。そこで今回は①職員研修時間の確保②10個の学習者像を児童に浸透させる実践・③それぞれの学年でどんな学習をしているのかを知る方法を紹介したい。

1 IBPYP研修

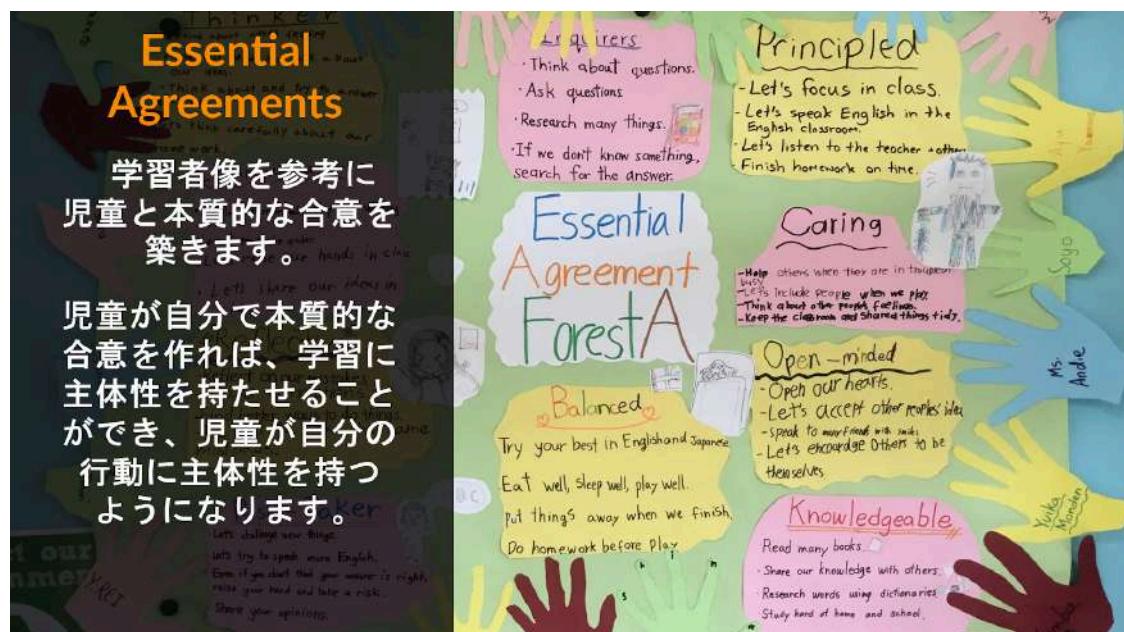
本学はPYP認定校であり、教職員が常にIB教育について学び続けなければならぬ。しかも職員の中には本校で初めてIB教育に触れる教員もいる。そこで校内研修が必要であり、コーディネーターを中心に毎週研修を実施している。ただ働き方改革が叫ばれる中、時間の保証をしてあげる事が必要であると考える。教員は日々、学級経営・授業準備・行事の準備・会議に追われている。本学ではPYPに特化して考える時間を学校が保証する為に、週に1回PYPの集団研修の時間を2時間作り出している。*その為保護者の理解を得たうえで下校時間を早める日を作っている。

実施効果

この研修を始めて5年が経過するが、すべての教員がPYPについての理解の促進を図ることができている。その他の業務に追われる事がなく、慌てず、しっかりとテーマごとに取り組む事ができている。

2 IB学習者像の理解・推進

学習者像は常にユニット・プランナーにも記され、児童にとっては意識をしているものであるが、どのように児童が考え捉えているのかは理解が難しい。そこで実際に児童たちにどのように考えたかの発表をする事によって学習者像への理解推進につなげる。





毎週の学習者像

各クラス、朝の会と帰りの会で目標とする学習者像について意識づけと振り返りを行っています。



毎月の学習者像

毎月の集会で各学年が目標とする学習者像についての発表をしています。

3 授業の様子

UOIのユニットで実際に学習している内容を他学年の児童・保護者に伝える。ここでは1年生と6年生の内容の掲示を紹介する。

Grade 1

Where We Are in Place and Time

Central Idea:

公共の空間は、人々がつながる機会を提供する。

Key Concepts:

form(特徴), connection(関連), function(機能)

Lines of Inquiry:

- ・コミュニティにある様々な公共の空間 - (特徴)
- ・公共の空間がコミュニティの人々にどう役立つか - (機能)
- ・人々はどのように様々な場所を利用するのか - (関連)



Grade 6

Where We Are in Place and Time

Central Idea:

文化や社会の間の相互関係には様々な特徴がある。

Key Concepts:

Perspective (視点) / Form (特徴), Causation (原因), Change (変化)

Lines of Inquiry:

- ・世界中の文化や社会 - (視点) (特徴)
- ・社会を形成する思想や技術の効果 - (原因)
- ・ある種の文化が消滅してしまう要因 - (変化)



効果

この掲示を初めて、児童の中に「こんな活動をしている。」「自分たちの時とは校外学習が違う」などユニットを意識する事ができている。

また来校される保護者にも、「今自分の事もが何を学習しているのか分かりやすい。」との評価をいただけている。

私たちは、児童たちのIBの学びが生涯続いていけるように試行錯誤を重ねながら実践している。